

黙示録7章：贖われた者たち

7章は6章の次に起こることではなく、6章の間に起こっていること。

6章で、第五の封印「神のことばのゆえに殺された人々」がどうなるかが書かれている。

1－8節：十四万四千人のイスラエル人

「額に印」：神のしもべであることの証印。患難の害を受けないように神が守ってくださる。

「イスラエルの子孫のあらゆる部族の者」：

神の救いの計画

- 1) 旧約時代：イスラエルの救い
- 2) 新約：異邦人に及ぶ救い
- 3) 異邦人の救いが完成すると、イスラエルが完成する。(ローマ 11:25-27)

彼らが再び 14 章に現れる。そこには、「神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われてのである。(4 節)」とある。

ならば、その後の収穫は誰か？→それが 9 節以降

9－17節：あらゆる国々の人々

「白い衣を着て」：第五の封印で死んだ人々に白い衣が与えられた。この人たち。

おそらく、14 万4千人が世界中の人々にキリストを伝えたと考えられる。

- 1) ユダヤ人は、世界中に散らばっている。
- 2) 離散の地にいる異邦人に、その言葉で福音を伝えることができる。

「小羊の血で洗って、白くした」：これはもちろん教会も同じ。イザヤ書 1:18

慰めの約束：

- 1) 聖所で昼も夜も神に仕える。
アダムの中から始まった苦しい労働ではなく、喜びがある。
- 2) 幕屋を張られる。
共にいてくださる、ということ。
- 3) 害を受けない。
- 4) 小羊が牧者。
- 5) 涙をすっかりぬぐってくださる。